

セ ボ ネ

タガヤ
ランティア
ットワーク



SETAGAYA VOLUNTEER NETWORK

世田谷発! ボランティア生活発見マガジン
<https://www.otagaisama.or.jp/>

2022.12 No.224

今月のトピック

●特集 P.2-5

**性に対する思い込み、
ひっくりかえしてみませんか?**

●せたがやキラリ人 P.6

阿部 温子さん

●レポート P.7

【NPO・市民活動応援セミナー】

NPOの基礎知識 ～自分たちに合った法人格を選ぶ～

イラストレーター●あすか
電車が大好きな小学1年生の
女の子です。
もっともっといっぱい電車に
乗りたいな。

●わたしの世田谷
生まれてからずっと通う病院。大
きな公園。私の通う小学校がある
世田谷区が大好きです。



性に対する思いこみ、ひっくりかえしてみませんか？

「性」はなかなか語りづらい。でも「性教育」をどうやったらいいのだろう？ 誰もが人生の場面で突き当たる「性」。「性教育」は子どもや思春期の若者に対するものだけではなく、大人にも大切な「生涯教育」です。まさに「性」は「生」。村瀬幸浩先生は、高校生、大学生などの若い世代、そしてニア世代にも「人と人との豊かな関係性を結ぶ」ための講演活動を先駆的に続けられています。区内で行われた講演会から、多岐にわたる「性」のお話のほんの一部をご紹介します。



「男子の性」を伝えたい

性教育に携わるようになって40年以上の村瀬先生が、冒頭語られたのは、自分の人生が変わったということ。男子校での中高六年間、まったく性を学ぶことはなかったと言われます。「セックスは女が知っていればいいことで、男は知らなくていい。妊娠しても女性だけがペナルティを受け、男の性行動は放埒でいいんだという非常にゆがんだ性の考え方がありました。今も基本的に変わりません。男尊女卑の考えが支配し、ジェンダーギャップも先進国で最も低いのが日本です。男女格差の問題を男たちが極端に無視しています」。声を大にして先生が講演などを通じて今一番伝えたいのは「男子の性」です。

ちょうどコロナ禍が始まったころの2020年春に出た「おうち性教育はじめます」(KADOKAWA)はマンガでこどもにいの

ちの大切さを伝える本ですが、売り上げ部数が22万部にもなりました。「こういう本が求められていた、ということでしょう。自分自身が子育てに悩むライター、編集者が私の家に何度も通ってきて、話をする中から生まれました。市民感覚が本の中に表れています」。

「親はほとんど性を学んでいません。とくに男親は皆無。政治家や新聞記者のセクハラをみても、惨憺たるものです。性の問題は理屈では割り切れない、昔からやっているようにすればいいんだ、と。家庭での性教育は、親がどういう向き合い方をし、お互いを尊重しあっているか、その様子が大きな教育力になるのです。お父さんとお母さんは男と女の関係のモデルです」。「日本は本当に性教育後進国。性交を教えるに興味を持つから教えないと、日本では教育指導要領に書いてあります。家庭も社会も学校も明るく性を生きようとしていないのです」。

「性」のとりえ方を変える

そんな状況の日本で、子どもたちがどう育っていったらいいかを考えていく上で、村瀬先生はこれまでの性に対する「思い込み」をどう変えていくべきか、共有したい考え方をわかりやすく説いてくださいました。

『本能としての性』から、『文

本能としての性	→ 文化としての性
自身の性 (別生の性)	→ 完成としての性 (共生の性)
To do の性	→ To be の性
宿命の性	→ 自己決定の性
道徳の性	→ 科学と人権の性
不幸に ならないための性	→ 幸せに 生きるための性

化としての性』へ。『自身の性』から相手のことに関心を持つ『関係としての性』へ。男も女のことかわからなければならぬ時代です。『To do の性』から『To be の性』へ。大学生への講義では、大事なのは行為(To do)ではなくあり方(To be)でそれを学ぶべきだというメッセージを送ってきました。『宿命の性』から『自己決定の性』へ。結婚して子どもを産むのが女の幸せだと、産まない女を責める。まだ結婚しないの？と親が言う。親の期待を裏切ることになるかもしれないけれど、自己選択の問題として性を考えたい。子どもの人生を根っこところで押さえつけている親はいっぱいます。親の人生に子どもを巻き込まずに、子どもの人生を支える、子離れを」と先生。

『道徳の性』から『科学と人権の性』へ。日本の刑法では性交同意年齢が13歳。欧米は15〜16歳で

す。一方で中学では「性交」を教えない。こんなめっちゃくちな人権無視はない。そこにあるのは、女は男に従えばいいという道徳です。純潔教育、母性教育です。セックスには触れずに、いきなり月経から妊娠、出産、そしておめでとう。そういう考え方はやめてほしい。産めない、産まない人はどうなるんですか？」と先生の言葉にも力が入ります。

『不幸にならないための性』から『幸せに生きるための性』へ。人工中絶を人殺しだと脅す。人間は失敗もします。犯罪や罪に結びつけるのには絶対に反対です。産み育てる環境が備われば産む選択もあります。とんでもないことをしたとは言えません。中絶すると女子は退学処分というのはジェンダーの配慮を欠いています。避妊教育は大事ですが、日本はあまり熱心ではなく、ピルも普通には買えません。女性がアクティブになることを非難する」。それでも

「Me Too!」運動などがさかんになってきたことは心強いことです。

セルフプレジャー、月経の話

「マスターベーションをセルフプレジャー」という言葉に置き換えよう」と村瀬先生は提起されます。「マスターベーションを下品で後ろめたいと思う人が多い。特に女性は語らない。射精、オーガズムに達してホッとする、ということは大切な能力です。最近、新潟県女性財団が冊子にセルフプレジャーという言葉肯定して入れてくれたのはうれしいことでした」。

「男の性は本能でどうしようもないから女が注意すればいい、と男には教えない。男も月経を勉強すべきです。月経を勉強することで、「そうなのか」と共感ができます。自分の気持ちで彼女の気持ちを振り回していた、と言った大

学生がいました。月経の話聞いて、PMS（月経前症候群）のせいでだっただと初めて気が付いた。月経を学ぶことは、関係を変える決定的な出来事ではないかと思っています」。

「うまれる」、「いのちを大切に」

「性教育は“生まれる”ことから始まります。羊水に包まれていた胎児が外に出されて最初に感じるのは孤独そして寒さ。親から離さずに抱かれていた時間を取る母子密着により、自己肯定感、生きる意欲を身につけていきます。ふれあいの心地よさがエネルギーになって行く。赤ちゃんから老人までセックスの一番基調になるのがふれあい。触れ合うことの安心感、は性行為も同じでしょう。挿入をしなくても触れ合うことが安心感につながります。生まれつき暴力的な子どもはいません。学習により育つ中で身に着けていくことだ

と思います。殴る蹴るというふるまいを通じて暴力を覚え、優しくされる経験があつて優しくするようになる」。

『いのちの安全教育』を文科省が言い出しました。いのちは大事です。でも私たちは相手に「からだを大事に」といいます。いのちは手が及ばない宗教的なもののように、からだの下に扱われることが不満です。からだのすべてが大事ですが、とりわけ大事なのは胸、性器、お尻などのプライベート・パーツです。性虐待はそういうところに向けて行われます。そこは自分だけが触っていい大切なところ、おとうさんやおかあさんだからといって勝手に触らせてはいけない、ということをお教えていきましょう。触ってくる人にはノーと言えるようにする。子どもが喜ぶと思うって大人は触る。子どもは自分を愛してくれる表現だと思ってしまう。

しかし子どもの性被害のほとん



講演中の村瀬先生

どは家庭内で起こり、父親が第一位です。学校でも評判のいい先生が加害者になりがちです。先生が自分と対等な人間として子どもをみていない。先生方も性について学んでいません」。

こどもの好奇心、そして思春期

「『ぼくはどこから生まれたの？』『おかあさんから生まれたの？』とお父さんに似ているの？』という質問には、逃げずに『いいこと訊いてくれたね。難しい問題だからもうちょっと時間を頂戴』といって、きちんと話す力を持つてほしい。尿道口、膣、肛門の三つの出口があり、赤ちゃんは真ん中の出口から生まれてくるんだよ、普段は閉じているやわらかい管なんだと。親がいやらしいことだと思わなければ、子どもはそれで納得します。子どもがききたいのは、いのちの成り立ち、ということ、セックスのやり方を訊いているわけではないのです。『思春期』という時期はとても難しい。初潮、精通が始まったから、親を一人の人間としてみますから、自分が生んだ子どもであっても「他者」です。子どもの人格を基本的に尊重するしかありません。

子どもは親を頼らずに生きる道を見つけていく力をつけないと、自立できません。子どもを支配しようとしないうちに。思春期は難しいけれども面白いです。親につつまれている安心感と、親から離れようとする気持ちが思春期。その後は子ども抜きで、子どもを当てにしない生き方をしてください」。

常に先駆的に性教育を進められてきた先生は、家、男中心の家族が大事とする保守的な勢力からの攻撃をたびたび受けてこられ、七生養護学校への性教育バッシングに対する裁判は10年かかり、最高裁で原告側の意見が認められました。

夫婦別姓や同性婚などのさまざまな考えがある中で、家庭や学校、社会の中で「性は生きること」と声を上げ続けていき、明るく性を語れるようにしていくことがとても大事と思わされた会でした。

(文責／編集委員 星野 弥生)



村瀬先生と一緒に話し合う会「人間の生と性を学ぶ会」を、区内で二か月に一度開催しています。問い合わせは、070-5554-8433 星野まで



老人給食サービスで知られる「老人給食協力会ふきのとう」は来年で設立40周年。設立当初から関わってきたのが阿部温子さんです。小学5年生の頃から世田谷に住んでいる阿部さんがボランティアをするきっかけとなったのは、ふきのとう創設者の平野眞佐子さんの存在でした。

「次男が生まれたばかりの頃、平野さんが近所に越してきたんです。子ども同士が同級生でした。私はその時母の介護が忙しく、平野さんがうちの子どもも連れて遊びに連れて行ってくれることもありました。地域ぐるみで子育てをしていた時代ですね」

活動家の平野さんは、子どもが遊べる広場を守るための署名活動に奔走。その時、地域に独りで暮らしている高齢者が多いことに気付き、高齢者が孤立しないよう集まって食事をする会を始めました。

「早い話が、私は平野さんに巻き込まれたのよ」と笑う阿部さん。ある日『あなたは人使いが上手なの。ないという利点がある。だから事務担当にします』なんて言ってる。物事はこういうふうに捉えるものか、と」

阿部さんは介護と子育ての傍ら、ふきのとうが食事会から給食配送サービスへと成長していく過程をボランティアとして支えてきました。

「私は勤めて3年半で母の介護のために退職し、その後結婚、子

どもができて、長い時間家を空けることができなかった。そんな私の暮らしに風穴を開け、社会とのつながりを与えてくれたのが平野さんでした。主婦は単なる主婦じゃない、というのが彼女の考え方だったんです。料理をはじめ主婦の知恵は家庭のだけに留まるものではなく、多くの人のためになるものだと」

かつて平野さんが阿部さんにとってそうだったように、現在、阿部さんの存在も人々と社会をつなぐ役割を果たしています。コロナ禍でも阿部さんは家族に心配されながらも活動を続けました。地域は一つの家族」がふきのとうの信念です。

「ただ単にお弁当を作るのではなく、実際に自分たちが食べたいと思う美味しい食事を作ることが大事です。私も、そろそろ自分が利用する側になるのが楽しみなくらい。今後もこの活動が長く続くことを願っています。」

【NPO・市民活動応援セミナー】

NPOの基礎知識 ～自分たちに合った法人格を選ぶ～



10月29日に、世田谷ボランティアセンター会議室で、【NPO・市民活動応援セミナー】NPOの基礎知識 ～自分たちに合った法人格を選ぶ～を開催しました。

今回は、世田谷区内で活動するNPOなど市民活動団体の方々や、団体を作りたいとお考えの方々を対象に実施しました。東京ボランティア・市民活動センターの森玲子氏をお招きし、「自分達にあった法人格選び」をテーマに、主に一般社団法人とNPO法人のそれぞれの特徴と違い、また任意団体との違いについて整理した内容をご講演いただきました。

次回は、2023年3月に実施予定です。詳細は、またお知らせします。



参加者の声



【セミナーに参加された理由は？】

- ・これから活動を具体化する上で、法人化することのメリットがあるのか、活動をしやすいするためには、どういう形が適しているのかを知りたかったから参加しました。
- ・任意団体を運営しています。NPO法人化等をするメリット、デメリットなどをよく知りたいと思い参加しました。



【本日のセミナーで一番役に立った情報は？】

- ・活動の内容やメンバー、時期などNPOと他との違いが分かった。
- ・認証のプロセスなど具体的に定款と運営を実際にやってみてから移行した方がよいことがわかった。

ご相談ください

個別のサポートを必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、ボランティアの力を必要としている方と、ボランティアをおつなぎする橋渡しをしています。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、人と会ったり、集まったりすることが難しい状況ではありますが、困りごとを抱えていたり、どこに連絡したら問題を解決できる

のわからないという方は、ご相談ください。
電話でお話ししながら、どんなことができそうか、どんな解決方法がありそうか一緒に考えます。

●問合せ／世田谷ボランティアセンター
TEL 5712・5101

個別の学習支援を必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、「発達障害や学習障害の傾向があったり、不登校の経験があり、学習の理解の面で苦労をしている」「勉強に向き合うことが苦手。学校の授業についていけない」などの相談を受け、小学生・高校生の個別の学習支援に取り組むボランティアを探して紹介しています。
現在は、新型コロナウイルス感染症防止のため、オンラインでの学

習支援にも対応しています。勉強への気持ちや、学ぶポイントなど、本人のペースや特徴を尊重してやっています。お気軽にご相談ください。

●問合せ／世田谷ボランティアセンター 担当 高居・原口
TEL 5712・5101
takai@otagaisama.or.jp

ボランティア求む

小京 階段介助ボランティア募集

大阪在住の車いすユーザーの男性が、来年1月8日〜15日の間、下北沢で開講している身体表現ワークショップを受けたいが、ダンススタジオのあるビルにエレベーターがなく、2階まで階段で運び上げてくれるボランティアを募集しています。終了時間が遅いので、上りだけでもよいが、できればレッスン終了後、下りもお願いしたいです。

男性は肩を痛めていて、おんぶは無理、お姫様抱っこでも自分の腕の力で抱きつくことが難しいです。加えて、ビルの階段の幅が

●交通／下北沢駅徒歩4分
タジョ
●場所／下北沢駅近くのダンススタジオ
●条件／男性
●問合せ／梅丘ボランティアピュ
TEL 3420・2520
umebora@otagaisama.or.jp

東 柴犬のお散歩ボランティア募集(用賀・瀬田)

瀬田にお住まいの柴犬の飼い主がケガをしてしまい、朝夕行っていた毎日のお散歩ができなくなっていました。柴犬は7才の女の子、約10kgです。人が大好きで、犬にはちよつと厳しい性格です。元気いっぱい、お散歩が大好きです。トイレが外でしかできないため、雨でも行きます。犬が好きて、飼った経験のある方

お待ちしています！ 詳細はお問い合わせください。
●日時／月・金曜朝6〜9時の間 夕方17時〜19時(家を出る時間) 週1回から朝夕どちらかでも可
●条件／交通費支給(上限あり)
●問合せ／玉川ボランティアピュ
TEL 3707・3528
tamabora@otagaisama.or.jp

世 グループホームからバス停までの送り迎え

松陰神社駅前のグループホーム、ガーデン藍から徒歩5分のバス停までの送り迎えをしてくださる方を募集しております。朝、8時半にお迎えにきていただき8時45分にバスに乗せるまでをしていただきたいと思います。夕方は4時にバス停に行きグループホームまで連れて帰っていただきます。午前の部だけでも結構です。ご近所の方でいらっしゃいましたらありがたいです。よろしくお願

東 自宅最寄り駅から後楽園駅までの登下校に付き添ってくださる方募集

世田谷区内在住の知的障害のある女の子が、自宅最寄り駅（田園都市線の駅）から後楽園駅近くの学校までの登校または下校に付き添ってくださる方を必要としています。

女の子は、高校2年生で大人しい性格です。電車での移動には慣れており、乗り換える駅や路線などは理解しているの、基本的に彼女が移動するのを側で見守っていただく。詳しくはお問合せください。

い致します。

●日時／月・金曜までの8時半～8時45分

●場所／松陰神社駅前のガーデン藍1から区役所方面に5分

●条件／時間通り来てくださる方

●問合せ／社会福祉法人 藍
ガーデン藍1・Ⅱ 担当 門馬
TEL 6451・1980

garden-ai@ikiboo.or.jp
https://www.ikiboo.or.jp

●日時／

（登校）火・水・自宅最寄り駅7時40分ごろ待ち合わせ、9時ごろ学校着

（下校）金・17時に学校前にお迎え、18時ごろ自宅最寄り駅着

●場所／自宅最寄り駅（田園都市線の駅）と後楽園駅近くの学校の間

●条件／女性、交通費支給

●問合せ／玉川ボランティアビューロー

TEL 3707・3528
tamabori@otagaisama.or.jp

有償スタッフ募集

東 地域住民の方の日常生活のお手伝い・お話し相手になってくれませんか？

上用賀に拠点を置く老人給食協力会ふきのとうのホームヘルプ部門です。地域住民の小さなお困りごとのお手伝いをする方を募集しています！
楽しんでもらうことを大切にしていきたいので、得意・不得意なことを調整していきます。大学生もご遠慮なくご連絡ください。今後子育て世帯のお手伝いもしていきたいと考えていますので、子育て経験がある方も大歓迎です。謝礼等詳細はお問い合わせください。

●日時／基本は平日で、土日祝日もあり。日時時間応相談。

●場所／上用賀周辺（利用者さん宅）

●交通／利用者さん宅を訪問するため自転車があると便利

●問合せ／老人給食協力会ふきのとう 担当 山森
TEL 3706・2545
yamamori.nao@mow.jp
https://fukinotoh.mow.jp/

講座・その他・募集

年末年始休館のお知らせ

世田谷ボランティアセンターは、2022年12月29日（木）～2023年1月4日（水）までお休みさせていただきます。新年は1月5日（木）から開館します。なお、梅丘・玉川の各ボランティア

イアビューロー及び砧ボランティアビューロー準備室は、2022年12月29日（木）～2023年1月5日（木）までお休みさせていただきます。1月6日（金）から開館します。

「セボネ」は皆様の声を集めて制作しています。ボランティア募集、イベントなど情報をお寄せください。ホームページから情報を投稿できます。

講座・その他・募集

小 2022年度防災シンポジウム 「子どもたちと災害」

世田谷ボランティア協会が主催する防災シンポジウム。今年度は、災害時の子どもの変化をテーマに、専門家や被災経験者と共に、災害時に子ども達が抱える課題や必要な対策について考えます。

●日時／1月14日（土） 13時30分～15時30分

●会場／成城ホール（世田谷区成城6・2・1）

●交通／成城学園前駅徒歩3分

●参加費／無料

●定員／先着150名

●申込／せたがや災害ボランティアセンターHP内の専用フォーム

Aーシステムによるマッチングサイトのお知らせ

「趣味や技術、経験を生かしたい」「地域で活動したい」というボランティア活動をしたい方を求める方や団体などを、東京大学先端科学技術研究センターが開発したAーシステムによるマッチングサイト（世田谷版GBER）で結び付け、ボランティア活動を支援します。



詳細は左記QRコードからご覧ください。



ム、またはメールが電話にてお申し込みください。

●問合せ／せたがや災害ボランティアセンター

TEL 5712・5101

sagai-info@otagaisama.or.jp

京 災害ボランティアコーディネーター養成講座（基礎編） @日本女子体育大学

本年度4回目となる「災害ボランティアコーディネーター養成講座（基礎編）」を日本女子体育大学にて開催します！内容は講義・模擬訓練、世田谷区の災害対策、災害ボランティアの活動内容（世田谷方式）等を学びます。

●日時／1月21日（土） 13時30分～16時30分※13時より受付開始

●会場／日本女子体育大学 本館E101

●交通／千歳烏山駅からバス「日本女子体育大学前」下車すぐ

●参加費／無料

●申込／せたがや災害ボランティアセンターHP内の専用フォーム

大人の発達障害オンラインカフェ『かたりば』

「発達障害あります」「グレーゾーンかも」という方がオンラインで集うおしゃべりカフェ『かたりば』で、他の参加者やボランティアスタッフと一緒に話したいませんか。何かについて話したい、なんとなく話したい、人の話を聞いてみたい、ちょっとしたぞいてみようなど、どんなスタンスで参加しても大丈夫。気軽にのぞいてください。途中退席も大丈夫です。

●日時／毎月第3金曜日14時～15時半

●場所／ZOOM（オンライン）

アセンダーHP内の専用フォーム、またはメールが電話にてお申し込みください。

●問合せ／せたがや災害ボランティアセンター

TEL 5712・5101

sagai-info@otagaisama.or.jp



●参加費／無料

●条件／世田谷在住、在勤で発達障害のある方、自分は発達障害かもと思っている方

●申込み／当日午前中までに、玉川ボランティアビューローまでメールをください。ZOOMのリンクをお送りします。件名に「かたりば参加希望」と明記して下さい。

●問合せ／玉川ボランティアビューロー

TEL 3707・3528

tamabou@otagaisama.or.jp

OTAGAISAMA V I E W

せたがやチャイルドライン寄付・ご支援のお願い

①寄付・ご支援のお願い

せたがやチャイルドラインは、18歳までの子どものための電話です。電話を受けるのは研修を受けたボランティアです。

バザーや手づくり品の販売などで活動資金の一部を調達していますが、イベントの中止などにより、活動資金を確保することが難しくなっています。子どもをささえる活動を支援するため、ご寄付の協力をお願いいたします。

●郵便振替口座にお願いします。

●口座番号／

00150・8・279963

●加入者名／社会福祉法人世田谷ボランティア協会

※この口座への寄付は所得税の寄付金控除の対象にはなりません。通信欄に「寄付申込書せたがやチャイルドライン」とご記入ください。

②講義集の販売

受け手講座の内容をまとめた講義集『子どもに育ててもらったおとなたち』をメールでご注文いただけます。この講義集は受け手養成講座のテキストでもあり、せたがやチャイルドラインが大切にしている「子どもへのまなざし」がぎゅっと一冊にまとめられています。受け手講座に関心のある方や、子どもとのかかわりに悩む大人の方にもぜひ読んでいただきたい内容となっています。

●価格／1冊1000円（税込）。

支払いは後日お振込みとなります。（別途送料）

●注文方法／郵送ご希望の方は、「名前・送付先住所・電話番号・冊数」をご記入のうえ、メールでお申し込みください。

●問合せ／せたがやチャイルドライン事務局 担当 小畑・高居
TEL 5712・5101
childline@otagaisama.or.jp

梅丘と代田のボランティアビューローを統合しました

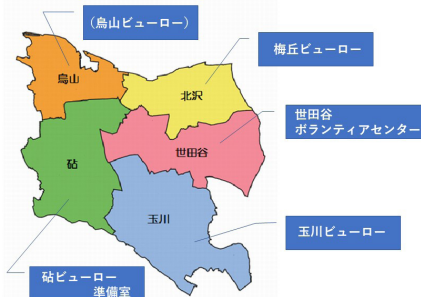
2022年12月1日に、梅丘ボランティアビューローと代田ボランティアビューローを統合しました。そして、現在の梅丘ボランティアビューローが北沢地域の活動拠点となります。

1982年に、梅丘と代田にボランティアビューローを開設し、約40年間2つの拠点で北沢地域の市民活動を支えてきました。代田ボランティアビューローをご利用

して下さった方々、改めて、ありがとうございます。

2023年4月には北沢地域のボランティアビューローとして名称を変更する予定です。また、烏山地域にボランティアビューローを開設する準備を進めています。引き続き、世田谷ボランティア協会を、どうぞよろしくお願いします。

世田谷ボランティア協会の拠点



世田谷ボランティア協会の活動・支援拠点

●「市民が主役」のボランティア活動の拠点●

- 世田谷ボランティアセンター 〒154-0002 下馬2-20-14 TEL (5712)5101 FAX (3410)3811
- 梅丘ボランティアビューロー 〒154-0022 梅丘1-8-9 TEL (3420)2520 FAX (3706)2854
- 玉川ボランティアビューロー 〒158-0094 玉川2-1-15 TEL (3707)3528 FAX (3708)3058
- 砧ボランティアビューロー準備室 〒157-0066 成城6-3-10 TEL (6411)4007 FAX (6411)5888

●いのちを大切にすると「ふらっと」&「with」です●

- ケアセンター「ふらっと」 〒154-0002 下馬2-20-14 TEL (5712)5105 FAX (3410)3813
- ケアセンター「with」 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋1F TEL (6805)4715 FAX (6805)4718

●くらしを紡ぎ、わかちあう「結」と「連」●

- ケア相談センター結(ゆい) 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (5433)2830 FAX (6383)2156
- ケアステーション連(れん) 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (6805)4716 FAX (6805)4718

●障がいにとまなう「困った!」を話せるところ●

- 地域障害者相談支援センター ぽーとせたがや 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (6804)0405

●でんわだから、はなせるネ! 18さいまでのこどもせんようでんわ●

- せたがやチャイルドライン こどもせんようでんわ TEL (3412)4747 0120-99-7777(フリーダイヤル)
*事務局は世田谷ボランティアセンターにあります

拠点は今… 今月のおススメ!

◆センター&ビューローより

1月14日は「防災シンポジウム」を成城ホールで、1月21日は「災害ボランティアセンターコーディネーター養成講座 基礎編」を日本体育大学で開催します。詳しくはP.10をご覧ください。

◆ふらっと& with より

今年もあとひと月となり、寒さも本格的になってきました。コロナウイルスに加え、インフルエンザの季節になりました。引き続き体調面には気をつけながら師走を駆け抜けていきたいと思います。

◆結・連より

介助を必要としている人がいます! 世田谷を走り回っています。ヘルパー募集継続中です!

◆チャイルドラインより

2023年1月15、16日で「世田谷ボロ市」に出店します。ボランティアさんの手作り品や、八女の物産品を販売予定です。ぜひお立ち寄りください、お待ちしております!

編集後記

■村瀬先生のお話を拝聴したことがあるのですが、「性」は「生」の問題という視点で、とても考えさせられる深い内容で、P.3にまとめたように性のとらえ方を変えていくことは非常に大切だと思いました。皆さまも機会がありましたら、参加してみたいかがでしょうか?

■12月になると毎回「気が付いたら12月」とか「あっという間に1年」と言ってるような気がしますが、今年も言わせてください(笑) 良いお年をお迎えください。(近藤)

- 発行
社会福祉法人
世田谷ボランティア協会
〒154-0002
世田谷区下馬2-20-14
TEL 03-5712-5101
FAX 03-3410-3811
- E-MAIL
setabora@otagaisama.or.jp
- ホームページ
<https://www.otagaisama.or.jp/>
- 発行人
横山 康博

